

第1号（令和3年3月10日）

苫小牧市教育委員会

市史編集事務局

苫小牧市史編さんだより

〒053-0011

苫小牧市末広町3丁目1-15

TEL 0144-84-6008

FAX 0144-37-5656

市史に関する積極的な情報発信と多くの皆様からの情報提供をお願いし、「新市史」の充実をはかり、まちの歩みと先人の労苦を後世に伝えていきます。

新「苫小牧市史」編さん方針を策定しました

2020（令和2）年10月9日（金）苫小牧市史編さん審議会蓑島栄紀会長より岩倉博文苫小牧市長へ、新「苫小牧市史」編さんにおける基本方針などの答申がおこなわれました。

答申では、会長より、新市史編さんにあたって従前の苫小牧市史の発刊経緯、その後の内外の社会情勢の変化や苫小牧市の変化、先住民族としてのアイヌ民族の立場や近年の女性史を盛り込み後世へ伝えていくことがこれからのまちづくりを進めるうえで意義があり重要であるとの趣旨が添えられ、新市史編さん方針、目次大綱、執筆要領を市長へ手渡しました。



苫小牧市史編さん審議会（蓑島栄紀会長 左）から市長へ（右）

編さん方針の概要（新しい市史は、以下の方針に基づいて編さんしていきます）

- 新しい市史の名称は、「新苫小牧市史」とし、先史から2019（平成31）年ごろまでの出来事を取り扱います。
- これまでの諸研究を参考に、苫小牧市の考古、歴史、民俗、自然等に関わる最新の成果や街並みの変化などを可能な限り盛り込みます。
- 平易な文章で記述し、写真や図、イラスト等を活用するなど、広く市民に親しまれ、分かりやすいものとしします。
- 失われつつある貴重な資料を幅広く収集し、調査研究を進めます。
- 情報発信を積極的に行い、広く市民に周知するとともに、さらなる市民からの情報提供を促します。
- 市史編さんを通じて収集した資料や歴史的公文書については、将来にわたって適正に保存・活用するための方法を検討します。

詳細 <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kyoiku/sisi/singikai.html>



「新苦小牧市史」編さんスタート

「苦小牧市史」（以下「市史」）は1973（昭和48）年に苦小牧100年を記念して計画され、上巻を1975（昭和50）年、下巻を1976（昭和51）年に、資料編を1977（昭和52）年に刊行し、完結しました。

その後、2000（平成12）年度、市制施行50周年記念事業として取り組まれた追補編は、2001（平成13）年に刊行となりました。

「市史」が刊行されてから半世紀が経過しようとしている現在、内外の社会情勢は大きく変化し、かつて経験したことのない少子高齢化や市内中心部の空洞化、東部地区の発展など街並みや市民生活は大きく変わりつつあります。

また、先住民族としてのアイヌ民族の立場や、近年の女性史の成果などを組み込んだ現代的な視点に立った新しい歴史像も求められています。

さらに、市内に残されている有形、無形の貴重な資料は、急速に失われていくことが懸念され、資料を保存し、市民の財産として後世に伝えていくことが喫緊の課題となっています。

このような中、2023（令和5）年に、勇払郡開拓使出張所を苦細村に移転して150年、市制施行75周年を迎えるのに合わせて、これまでの「市史」の成果に、新たに発見された資料や研究などを加えることで、新たな「市史」（以下「新市史」という）を編さんすることとなりました。

現在、新市史を市民に親しまれる通史として刊行することを基本に、作業を進めています。



昭和50年から平成13年に発刊した苦小牧市史
（右から上巻、下巻、資料、追補編、年表、関連誌）
撮影協力：苦小牧市立中央図書館

市史及び関連誌発刊経緯

1940（昭和15）年5月30日	苦小牧町史	
1973（昭和48）年8月1日	目でみる苦小牧の百年	
1975（昭和50）年3月31日	苦小牧市史 上巻	50年ぶり
1976（昭和51）年3月31日	苦小牧市史 下巻	
1977（昭和52）年3月31日	苦小牧市史 年表（苦小牧市史 別巻）	
	苦小牧市史 資料編第一巻	
	苦小牧市史 資料編第二巻	
1997（平成9）年10月25日	続苦小牧市史 年表（昭和52年～平成8年）	20年ぶり
1998（平成10）年9月1日	苦小牧のあゆみ	
2001（平成13）年3月25日	苦小牧市史 追補編	
2020（令和2）年10月9日	新「苦小牧市史」編さん方針等答申書	
2023（令和5）年度（計画）	新苦小牧市史	（苦小牧150年、市制施行75年）

写真からわかる街並みの移りかわり ～ 駅前本通り（表町、王子町）

1926（大正 15）年頃（南→駅前方向）

本通りは、1892（明治 25）年鉄道開通後、停車場前からまっすぐ札幌本道（国道 36 号）に向かって敷かれ、「停車場通り」と呼ばれていました。

大正時代の道路交通手段は馬車、馬そり、人力車、荷車、自転車で、荷物の搬送でも自動車はまだ普及していませんでした。



出典：『目でみる苫小牧の百年』（苫小牧市 1973 年）より引用

1956（昭和 31）年頃（駅前→南方向）

写真からも駅前本通りの賑わいが見えてきます。貨物自動車の普及は始まっていますが、乗用車はまだ普及しておらず、人々の移動にも自転車が多く使用されていました。

また、市営バスは 1950（昭和 25）年 8 月、3 台のバスにより運行開始され 2012（平成 24）年 4 月、民間移譲されました。



出典：『苫小牧市史 下巻』（苫小牧市 1976 年）より引用

1998（平成 10）年（駅前→南方向）

1965（昭和 40）年以降、マイカー時代と呼ばれる車社会を迎え、1998（平成 10）年の市内 1 世帯当たりの乗用車保有数は 0.97 台、道路舗装率は、国道 100.0%、道道 88.0%、市道 64.3%となっていました。

本通りは、シンボルストリートとして 1991（平成 3）年度から 1994（平成 6）年度まで整備されています。



出典：『苫小牧市史 追補編』（苫小牧市 2001 年）より引用

2021（令和 3）年（駅前→南方向）

車社会において、大規模集客施設の郊外立地、居住人口の減少等、商業環境の変化により顧客・住民ニーズへの対応が年々難しくなっています。

そのような中、2011（平成 23）年からにぎわいの創出、公共交通の利便性の向上、まちなか居住の促進を基本方針とする「まちなか再生総合プロジェクト（CAP）」が始まっています。



写真：苫小牧市史編集事務局

八王子千人同心の新資料発見！

むりょうざんじねんいんたいじょうじ 無量山自然院大成寺（釧路市）
 はらたねあつ 原胤敦 奉納 鱧口 鱧口

1800（寛政 12）年に蝦夷地（北海道）へ移住した八王子千人同心のリーダー（千人頭）である原半左衛門胤敦が、1801（享和元）年に白糠で奉納した鱧口が釧路市内の寺で発見されました。

江戸時代の蝦夷地において、原胤敦が直接関与したとみられる資料が確認されたのはこれが初めてとなります。

※鱧口（わにぐち）

神社仏閣の堂前に、布を編んだ太い綱とともにつるした円形の鈴。



原胤敦奉納鱧口（無量山自然院大成寺蔵）
 画像提供：苫小牧市美術博物館

資料のご寄贈ありがとうございました

広報とまこまいをご覧になられた市民の皆様から、貴重な資料のご寄贈をいただきました。誠にありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

寄贈者	主な寄贈品
N 様	昭和 18 年の卒業アルバム等
T 様	書籍
Y 様	絵葉書

資料提供、情報提供のお願い

ちょっと待って、捨てないで!!

まちの発展と歴史的事実を記録し、後世に伝える新たな市史を作成するために、昔の街並みや日常生活の様子が分かる資料等を探しています。

探している資料や情報 ～昭和以前の苫小牧について～

- 昔の紙の資料（古文書、手紙、日記、帳簿、絵葉書、絵図、賞状、会社や商店のチラシやパンフレット、記念誌、戦前の新聞、書籍、雑誌など）
- 昔の街並みや日常生活の写真や映像（フィルム、ビデオなど）

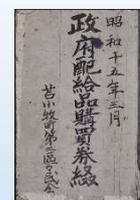
<連絡先>

苫小牧市教育委員会市史編集事務局

住所：苫小牧市末広町3丁目1番15号（苫小牧市立中央図書館内）

電話：0144-84-6008 FAX：0144-37-5656

Eメール：sisihensyu@city.tomakomai.hokkaido.jp



古文書



絵葉書